



就労選択支援を どのように考えていくか

津地域障がい者就業・生活支援センター「ふらっと」

後藤 勇介





検討していくなかで大事にしていききたいこと

『意味のあるサービスにしていくために』

地域で「あるべき」・「できる」形を考える



就労選択支援とは



社会福祉法人聖マッテヤ会

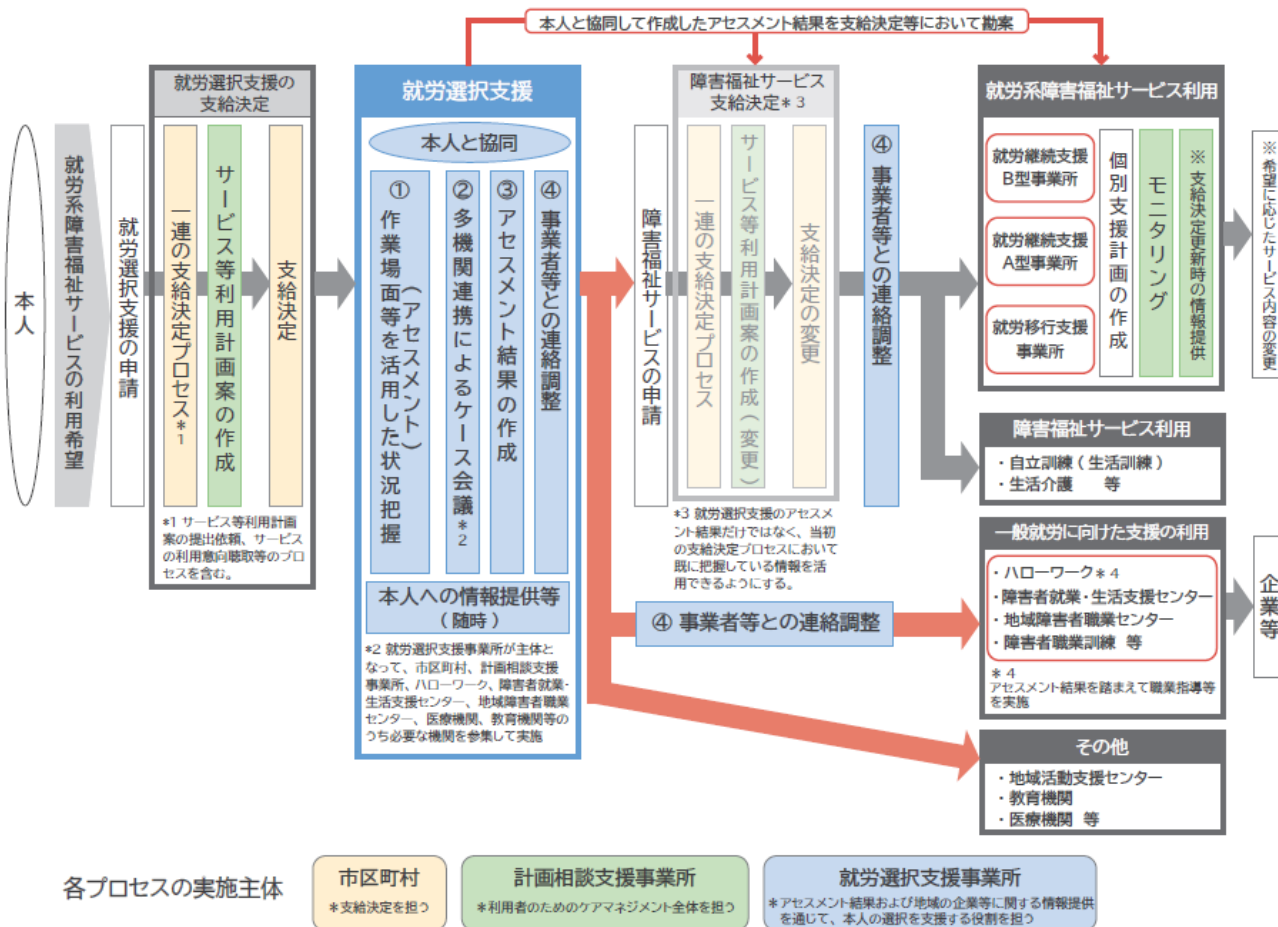
- 令和6年度から障害者総合支援法のもとで新設されたサービス
- 「サービス等利用計画」の中で提供され、就労系サービスの入り口に位置づけられる

目的：本人の希望や強みをもとに、適切な就労系サービスの選択を支援する



(5) 事業の基本プロセス

基本プロセス



- 形式的・断片的な評価にとどまり、
本人の納得感が乏しかった
- 本人の希望よりも制度や受け入れ先の
都合が優先される場面があった
- 初期段階での進路決定が本人の不安を
高めてしまうリスク



就労継続支援B型（非雇用型）



社会福祉法人聖マッテヤ会

通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち通常の事業所に雇用されていた障害者であってその年齢、心身の状態その他の事情により引き続き当該事業所に雇用されることが困難となった者、就労移行支援によっても通常の事業所に雇用されるに至らなかった者その他の通常の事業所に雇用されることが困難な者につき、生産活動その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行います。

【対象者】

就労移行支援事業等を利用したが一般企業等の雇用に結びつかない者や、一定年齢に達している者などであって、就労の機会等を通じ、生産活動にかかる知識及び能力の向上や維持が期待される者。具体的には次のような例が挙げられます。

(1) 就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者

(2) 50歳に達している者又は障害基礎年金Ⅰ級受給者

(3) (1)及び(2)のいずれにも該当しない者であって、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている本事業の利用希望者

(4) 障害者支援施設に入所する者については、指定特定相談支援事業者によるサービス等利用計画案の作成の経路を経て、市町村により利用の組合せの必要性が認められた者



社会で「働く」の広がり

様々な形で障害のある人の「働く」は広がっている

- 一般企業で働いている人
- 就労移行支援を利用して一般企業を目指している人
- 就労継続支援A型で働いている人
- 就労継続支援B型で働いている人

社会の理解や資源が充実してきて選択肢が広がってきていることは素敵なこと・・・



なぜ「就労選択支援」なのか



社会福祉法人聖マッテヤ会

社会の理解や資源が充実してきて選択肢が広がってきていることは素敵なこと・・・ですが

ご本人は

- ・ 自分にとって必要な情報を得られているか
- ・ 自分に合った働き方を見つけられているか
- ・ そのうえで選択することができているか
- ・ 就労系サービスを利用するうえで自分にあったサービスを選択できているか

これらを支援するのが「就労選択支援」



就労選択支援とは



社会福祉法人聖マッテヤ会



障がいのある人が

自分の力を知り、働き方の選択肢を持ち、受けられる支援を知り、それらを選択できるように支援すること

「働く権利を守ること」「働くことの意味決定支援」ともとれる



就労選択支援が目指すもの

- “いきなり選ぶ”ではなく“納得しながら選べる”支援へ
- 就労アセスメントを“情報収集”から“本人主体の意思決定支援”に転換
- 学校・福祉・医療等の多機関連携による総合的な視点を重視



学生の利用イメージ



社会福祉法人聖マッテヤ会

特別支援学校高等部における年間スケジュール（例）

※ 矢印（⇒）期間内のいずれかで就労選択支援を実施



生徒

卒業後、
自分にできる仕事は？
自分に合うサービス（事業所）は？

卒業後、自分の子どもは
どんな働き方ができるのか？
本人に合うサービス（事業所）は？



保護者



先生

生徒が希望する進路先は？

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	入学		保護者面談	職業ガイダンス						保護者面談		
2年				保護者面談					保護者面談			
3年				保護者面談					保護者面談			卒業

これまでのように「進路を決めてから利用」
ではなく、「進路を決める為に利用」する





就労選択支援で主に行っていくこと

情報提供

- ・ 地域における就労支援に係る社会資源や雇用事例などに関する情報

作業場面を活用した状況把握

- ・ 施設内でのアセスメント
- ・ アウトリーチで行うアセスメント(企業や他施設に訪問して行う)

多機関連携によるケース会議

- ・ 就労選択支援事業所以外の地域の関係機関とアセスメント結果を共有し、その後の適切な支援に繋げていくための会議



地域で検討していくうえでのポイント



社会福祉法人聖マッテヤ会

- ✓ 障がいのある人の働き方の多様性・可能性を支援するサービスであるという共通認識をもつ
- ✓ フレームは示されるが、地域事情は様々。意味のあるサービスにしていくには、地域事情に応じてカスタマイズしていかなければならない
- ✓ 地域ネットワークの中で必要となる就労選択支援事業の在り方を地域単位で検討していく

自立支援協議会で検討していけると良いな

